

# デジタル Digital エッセイ

## 「暗黒星雲賞受賞記念」

坂口 裕靖

やっと終わりました第49回日本SF大会、2010TOKON10（ニーマルイチマルトコンイチマル）。今回は vaio の中の人として、そのドキュメントをお送りしましょう。

事の発端は昨年（2009年）10月29日の夜23時頃。日頃筆者もよく遊んでもらってる某OB、F田さんの所に、大学時代のサークルであるSF研現会長の巽孝之先生より突然電話がありました。なんでも20年ぶりに東京でやる日本SF大会、2010TOKON10の開会式・閉会式について、サークルのOB連中で手伝ってほしいかとの打診。良識的な社会人としては知るかボケ、と断るところですが、ここで断ってしまうとせっかく再生したSF研現役諸君の将来に暗雲をもたらし

かねない上、筆者と同期のM崎くんおよび先輩のA井さんがすでに実行委員会に取り込まれていること、巽先生自体が大会顧問となっていることなどが判明。すでに人間関係的にはがんじがらめで、逃げて関係を絶つか、自ら油をかぶって炎に飛び込むかの二択しかありません。とりあえず前年2008年にサークルの35周年記念パーティで色々遊んだOB連中で緊急対策会議。名古屋からはN澤教授、日吉からはN島准教授、筑波からはM田准教授も身を挺して協力するとの悲痛な声が上がると、F田さんが全OBを代表して、現役および若い世代のOBと連携する場合に限り受諾との返事を、小手先の美辞麗句と世俗にまみれたメールで出しちゃったからもう逃げられない。

結局動き始めたのは11月30日、場所は我々のサークルがすでに30年以上お世話になってる渋谷ウエスト。ここで実行委員長、企画局次長はじめ、今回の実行委員会・企画局メンバーと顔合わせをしたのでした。この時点ではあくまで一般論の確認だけで、何も決まってない状態。それでも宝野アリカさんのライブを是非とも実行したいこと、星雲賞の発表等を開会式と合体させたいこと、閉会式で大会期間中に撮影した写真素材を使った映像を流したいこと、消防法の関係から定員が厳しいので、大小ホールで中継したいこと、等々は案としてあがってました。まあ我々の中の人もいきなりのお話でスケジュールの調整もなかなか難航し、最初に参加した全体会議は12/20でした。すでに11/30に委員

### ワンポイント パスワード

## local Shared Object

ローカルで動いているswfのインスタンス同士が通信する方法は幾つかありますが、一番安定しているのはそのマシンにwebサーバを立て、そいつ経由でやりとりすることでしょう。flashなんざより遙かに安定しているapacheを使うわけですが、これが一番おすすです。次に安定しているのは何らかのラッパーアプリを作成し、このアプリとfscommand/SetVariableを使って通信する処理系を作成し、その経路で通信すること。各々のswfはアプリとのみ送受信し、アプリ側でルーティングやらなんやらの面倒を見てやることとなります。SetVariable/watchによる通信は意外とまともかつ高速なので、少量データのやりとりがメインであるならこれがおすすです。また、アプリ側で外部にアクセスしたりといった柔軟性を持たせることが出来るのも特徴です。

さて、次の実現手段として考えられるのがlocalSharedObject（以下LSO）を使った通信です。LSOとは物理的にはファイル

で実装されているのですが、これをオブジェクトストレージとしてアクセスできるような仕組みがflashのランタイムに備わっています。今回送出システムを作成するにあたり、このLSOベースの通信で設計してみたのですが、これがハマった原因の一つでした。セマンティクス上LSOはロック権限(getLocal)を獲得してからアクセスすることになってますが、どうもこのロック周りの処理に何らかの問題を抱えているらしく（そりゃそうだ、解放するAPIないんだもの、設計が悪いよね）、たかが毎秒数十回程度のレートで獲得・解放してるだけなのに、表示しているディスプレイが違うインスタンスからのロックが失敗するケースがあるようです。今回暗黒星雲賞を頂いたvaioも、結局はこのLSOロック機構の出来の悪さが一番の原因で、次の画像に変えるという命令が届かなかった為に再起動する必要があったのでした。ちえ。

長他と面通しは終わっていたため、どんな部局があるかと顔を覚えて年が終わった感じ。

日本 SF 大会は、毎年夏の時期に日本各地のどこかで開催しているのですが、前回東京でやったのは 1990 年。よく考えると 20 年も前になりますし、東京で 10 回目というのは一つの区切りです。そこで過去の TOKON に関する記録や映像を揃えてオープニング映像に入れ込むというのが一つの指針となりました。我々の世代で SF 大会のオープニングといえば DAICON3 とかが有名ですけど、いきなり決まった OB 連中でそのレベルのモノを作れと云われても、正直難しい状況。そこで F 田さんが巻き込んできたのが和田敏克さん。まあまるっと全部背負わされた方はたまったもんじゃありませんけど、オープニングアニメとそれにまつわる様々な重圧をオフロードできたことは大変助かりました。

毎回の SF 大会の機材を担当されてるバイプランニングさんとやっと顔合わせできたのは 3 月末。5 月以降は毎週水曜日、18:30 から新宿三丁目の「珈琲西武」で式典関係の打ち合わせをやることになります。

今回の会場は船堀にあるタワーホール船堀。定員 700 人ぐらいの大ホールと、定員 300 人ぐらいの小ホール、および 3F・4F の会議室を借り切って運用する感じ。様々な紆余曲折があったものの、我々式典チームが関係する大小ホール関係は初日が開会式（宝野アリカさんのライブ含む）と慶應大学グローバル COE プログラム、二日目が桃井はるこライブと閉会式という感じ。これに加えて佐藤嗣麻子さん・山崎貴さん・寺田克也さん・夢枕獯さん参加のシネマトークショー、萩尾望都さん・佐藤嗣麻子さん・夢枕獯さんおよび小谷真理さん参加のメインゲストパネル、およびコスプレ小谷杯といったあたりを担当することになりました。司会二人のうち、一人

は OG の F 木さんを投入しました。

今回送出システムをどうしようか結構迷ったのですが、本番 1 ヶ月前の時点で文言にしる内容にしる香盤にしる具体的な事が何一つ決めきれなかったことから、念入りに仕込んで出すのは無理と判断。素材さえあれば送出できるように、基本パソコンから出す方針を決めました。といってもここまで構成がぐたぐたと本番時に変更が発生することもありうるため、line/next が確認できて、動画・静止画・文字をきちんと出せることが要求されます。となるとパワボじゃ無理なのは明らか。というわけで、結局送出システムを flash と C# で自作しちゃいました。大会最終日の一番忙しいところで、大会期間中の映像をまとめなきゃいけないとなると、ちんたらレンダリングしてるなど自殺行為とか他殺行為とかか虐殺行為とか。そこで以前もこの連載でちょっと触れましたが、その送出用パソコンとして vaio Z を新規自腹購入、その場で編集・レンダリングして送出までいける環境を揃えて、いよいよ前日です。会場諸注意を映像で流したいという某 F 田プロデューサの意向を汲み、S 藤くんが書いた 4 ポーズ、ロパク 2 パターンの PNG 素材を元にでっちあげた 150 秒のアニメ（しかも一部文言が過激だったので前日に修正）、またボトムズの AT のかぶりものをした S 村くんの映像による「開会式は記録禁止」映像 60 秒、および前日 18 時にハンドキャリアで届いた和田さんのオープニングアニメと一緒に開会式用 DVD の焼きが終了したのは当日朝 06:30。当然朝食もとれず、徹夜状態で本番を迎えることになります。もちろん客入れの間も送出システムの文言修正やレイアウト修正などを行いつつ、すべての準備と B プランの体制が整ったのは本番 15 分前。今回開場から開演まで 1 時間ほどあったので、その間は宇宙空港の待合ロビーという設定のアンピエント（これも当日早朝完成）を流して楽しんでもらいつつ、

いよいよ本番を迎えました。

最初の会場注意はそこそこウケ、次の記録禁止がなぜか大ウケ。その後和田さんのきっちり作られたアニメで大喝采を頂き、無事開幕。柴野拓美さんへの黙祷、星雲賞の発表と何事もなく進行していったのですが、海外長編部門発表の場面で突然 flash の調子が悪くなり、どうしても画が切り替わらず、アプリの再起動が必要に。そこで素早く Alt+F4 で落としてアプリを再起動、無事送出は続行できたのですが、この一瞬で本線に vaio の壁紙が大写しに。会場からは割れんばかりの笑いと拍手を頂戴したのですが、送出担当としては目からは血の涙、耳から炎が出る思いでした。その後の宝野さんのアンセム、ミニライブはノントラブルで進行し、無事開会式は終了です。全身から力が抜けましたが、この時点で閉会式用の準備は何一つできていません。慶應の講演は N 澤さんにまかせて、そそくさと楽屋で閉会式の仕込みに入ります。ついでに送出システムにリセット機能を実装し、閉会式のリハをして初日は終了。皆と飯を食った後、部屋に戻って睡魔と戦いつつクロージング映像の編集。素材は大会記録班の皆様が撮影した写真を M 田さんと Y 本くんが厳選したものです。結局当日朝、DVD が焼き終わらなくてリハが 5 分押しになっちゃいました。

リセット機能のおかげで閉会式は大過なく乗り切る事ができ、クロージング映像できっちり幕を落とせました。ちなみにこの「星雲賞発表の vaio」は大会参加者の投票による「第 20 回暗黒星雲賞・自由部門」受賞という、なんとも心温まる評価まで頂けました。大変だった分なんとも楽しい夏でしたが、当面こういっちはご勘弁で感じ（拝）。

Hiroyasu Sakaguchi  
(株) IMAGICA イメージワークス